

ネットゼロ

信頼性の高い目標の設定

野心から科学的根拠に基づくコミットメントへ：実践ガイド
ESGおよびサステナビリティチーム向けガイド

コーポレート・サステナビリティ・ガイドシリーズ

1. 「ネットゼロ」とは実際どういう意味か？

ネットゼロとは、排出される温室効果ガスと大気中から除去される温室効果ガスのバランスを達成することです。「カーボンニュートラル」とは異なります。カーボンニュートラルは、深い排出削減なしにオフセットによって主に達成できる概念です。

主な区別

カーボンニュートラル：排出量はオフセットでバランスが取れますが、深い削減は必要ありません。多くの場合、近期的なマーケティング上の主張です。

ネットゼロ（企業）：科学的根拠に基づく目標（SBTi）のネットゼロ目標は、2050年までに排出量を少なくとも90%削減し、残余分は炭素除去によってオフセットすることを求めています。

クライメートポジティブ / カーボンネガティブ：排出量より多くの炭素を除去すること。一部の先進企業（例：パタゴニア、インターフェイス）はこれを目指しています。

2. 目標の科学的根拠

IPCCが確立した1.5°C経路では、世界のCO₂排出量は2050年頃までにネットゼロに到達する必要があります。科学的根拠に基づく目標は、認められた方法論を用いて、この世界的な予算を企業目標に変換します。

アプローチ	概要	最適な対象
絶対的削減	1.5°C予算に整合する割合で絶対排出量を削減する	ほとんどのセクター。シンプルで透明性が高い。
セクター別脱炭素化	セクター固有の経路に整合する（例：鉄鋼、セメント、電力）	特定の脱炭素化軌跡を持つ重工業
1.5°C整合（SBTi FLAG）	森林・土地・農業に特化した方法論	食品、農業、林業企業
温度評価	目標を温度アウトカムに対してスコアリングする	投資家によるポートフォリオ分析で使用される

3. SBTiフレームワーク

科学的根拠に基づく目標イニシアチブ（SBTi）は、企業のネットゼロコミットメントにおける主要な基準です。SBTiによって検証された目標は、投資家、顧客、規制当局から最も高い信頼性を持ちます。

二層目標構造

SBTiのコーポレート・ネットゼロ・スタンダードは、企業に2つの期間で目標を設定することを求めています。

目標タイプ	期間	必要なスコープ
近期目標	現在から5～10年後	スコープ1、2、および重要なスコープ3（総排出量の40%超）
長期 / ネットゼロ目標	2050年まで	スコープ1、2、およびすべての重要なスコープ3
残余排出量	90%以上の削減後	炭素除去によって対処しなければならない（回避オフセットは不可）

コミットメントプロセス

1

コミット

SBTiコミットメントレターに署名します。これにより、目標を検証のために提出するための24ヶ月が与えられます。公開コミットメントはアカウントビリティを生み出します。

2

目標の策定

SBTiの目標設定ツール（絶対的削減またはセクター固有）を使用して、必要な削減率を計算します。目標は近期と長期の両方をカバーする必要があります。

3

検証の申請

コーポレート・ネットゼロ・スタンダードに照らして審査するため、目標をSBTiに提出します。SBTiは野心性、スコープの対象範囲、方法論を確認します。

4

コミュニケーションと開示

検証された目標を公表します。CDP、CSRD、またはサステナビリティレポートを通じて年次進捗を報告します。

5

実行

移行計画を実施します。ビジネスモデルが大幅に変更された場合は目標を更新します。

4. 移行計画の策定

計画のない目標は単なる願望です。移行計画は、排出削減を実際にどのように達成するかを説明するものでなければなりません。気候変動が重要なトピックである場合、CSRD（ESRS E1）はこれを開示事項として求めています。

移行計画に含めるべき事項

- 基準年排出量とスコープ1、2、および主要なスコープ3カテゴリー別の内訳
- 特定の削減目標を伴う中間マイルストーン（例：2025年、2030年）
- 主要な脱炭素化手段：電化、再生可能エネルギー、省エネ、サプライヤーとの連携、自然を活用したソリューション
- 必要な設備投資とその資金調達方法
- 依存関係とリスク（例：技術の利用可能性、政策、サプライヤーの準備状況）
- ガバナンス：誰が責任を持つか、進捗をどのように追跡するか、経営陣の報酬とどう連動するか

一般的な脱炭素化手段

手段	対象スコープ	一般的な効果
再生可能電力への切り替え（PPA、REC）	スコープ2	スコープ2のマーケット基準法による排出を解消できる
車両・機械の電動化	スコープ1	ディーゼル/ガソリン燃焼を（低炭素）電力に置き換える
建物・事業活動の省エネルギー化	スコープ1・2	全体的なエネルギー需要を削減する
持続可能な調達 / サプライヤーとの連携	スコープ3カテ.1	ほとんどの企業にとって最大の手段。サプライヤーの脱炭素化。
物流を鉄道/海運へ転換	スコープ3カテ.4・9	鉄道の排出量は道路に比べてトンキロあたり約8分の1
持続可能な製品設計	スコープ3カテ.11・12	顧客使用時と廃棄時の排出量を削減する
自然由来 / 技術的炭素除去	残余	削減困難な残余排出量の最後の手段

5. オフセットの役割

オフセットには論争があります。それには十分な理由があります。SBTiは明確に述べています。オフセットは近期または長期の科学的根拠に基づく目標にはカウントされません。ネットゼロ時の残余排出量にのみ使用でき、炭素除去（回避ではない）によってのみ可能です。

回避と除去の違い

回避オフセット（例：森林伐採防止）：大気からCO₂を除去しません。SBTi目標にはカウントされません。「バリューチェーン外」の緩和のために自発的に使用できます。

炭素除去（例：直接空気回収、植林、土壌炭素）：物理的にCO₂を除去します。SBTiのネットゼロ残余排出量に必要。品質基準にはICROA、ゴールドスタンダード、Verra VCSが含まれます。

6. ガバナンスとアカウンタビリティ

強固な内部ガバナンスなしに野心的な目標は達成できません。ベストプラクティスは以下を含みます。

- 気候リスクと移行計画に関する取締役会レベルの監督
- 排出削減マイルストーンに連動した経営陣の報酬
- 明確な使命を持つ専任のサステナビリティまたは気候担当部門
- 経営陣と取締役会への定期的（少なくとも年次）な報告
- 排出量データと進捗の独立した外部保証

はじめに

まだ提出していない場合は、SBTiコミットメントレターを提出しましょう。無料で、意図を公に示すことができます。次に、スコープ1とスコープ2のインベントリを完成させ、上位3つのスコープ3カテゴリを特定し、目標設定プロセスを開始します。ほとんどの企業では、SBTiの検証は最初から最後までⓉ6～12ヶ月かかります。